

II 事例

根室管内で酪農機器を導入している農場の優良事例を紹介します。導入した目的と効果、利用方法、工夫している点などを聞き取り、導入前後の変化も掲載しました。

ただし、あくまでも事例であるため、導入効果を保証するものではありません。酪農機器の効果を最大限に発揮するためには、各農場の実態や作業体系に合わせて使い方を工夫し、適応させていくことが重要です。

導入している農場、これから導入しようと考えている農場、導入は考えていないけれど作業を見直したい農場など、多くの農場で参考になると思います。

《目次》

▼搾乳ロボット編	13
▼エサ寄せロボット編	21
▼哺乳ロボット編	27
▼自動給餌機編	33
▼自動換気システム編	39
▼自動制御照明システム編	43
▼分娩監視・行動監視システム編	45
▼発情発見・牛群管理システム編	47
▼乳頭洗浄機編	55
▼敷料散布編	57
▼ほ場管理システム編	59

□注意点

※導入効果を保証するものではありません。

※特定の商品やメーカーを推奨、評価するものではありません。

※酪農機器には様々な種類の機器がありますが、今回は事業により根室管内で導入された主なものについて取り上げております（掲載は順不同）。

※導入価格は、導入時の本体1台当りの事業費（税抜）であり、現在の価格を反映しているわけではありません。

※導入前後の生産性の変化については、導入する前後の乳検データ（管理乳量*）等と比較しています。

※写真や図表の番号は事例ごとに付けています。

*管理乳量とは

分娩の偏りや牛群の産次構成などを補正した乳量のことです。飼養管理技術の変化で増減します。技術改善効果を検証するのに利用できます。